

《題目》本当に手の付けられないダメ社員

前回のコラムで『自らの部下に、「ダメだ」とか「能力が無い」と言うことは、「私には管理職の能力がない」と自分で言っていることだ』と書きましたが、そんな私でも『これはダメだ』と思える人がいました。勤務していた自動分析室は、非常に忙しく、どんなに検体数が多くても、午後4時までには分析を終了し、結果をメインコンピュータに入力しなければなりません。今では、処理スピードの速い装置が開発されていますが、当時は1日に1000検体を4時までには結果入力まで完了するのは、大変でした。その為、担当外の仕事でも相互に助け合うようになりました。始業時には、一刻も早く分析をスタートすることが重要で、まず、検体を5本程度、機器にセットし分析をスタートし、機器が5本目を吸引するまでに10～15本をサンプリングし、機器にセットする。これを繰り返す。検体の機器へのセットが間に合わない時もあり、その際は相互にヘルプすることになっていました。誰でもが、ヘルプできるように、サンプルプレートへの検体の並べ方は左上から横に右側へ並べ、順に下の段に並べて置くのがルールでした。

ある時、途中で男性社員が自動分析室に入社し、慣れるまで先輩について仕事をしていたのです。1ヶ月位経過した時、事件が起きました。分析では、良好に行われているかを確認するため、濃度既知の管理用検体を20～30本に1本程度入れてあるのですが、彼が先輩と担当していた分析で管理血清が、それぞれ全く違う値だったのです。原因が判らず、担当の2人に聞いても判明しない。室長まで参加し、1時間以上原因追及していたら、その男性社員が、顔に笑みを浮かべながら、『あの～、サンプルプレートへの並べ方ですが、いつもと同じだとつまらないので、今日は、左上から縦に並べました』と言ったのです。彼が言った順番で結果をチェックすると、管理血清の値は見事に正しい値でした。リカバリー作業が大変でした。一緒に作業をしていた人は、怒り心頭。課長や係長他の数名で『2度とこのようなことはするな』と理由も含めて問題を起こした男性社員に、懇切丁寧に指導していました。

ところが、この後、2～3週間ごとに、同じ事件を3～4回繰り返したのです。2回目は、右上から、3回目は左下から。理由はいつも『毎日、同じ事をしているのがつまらないので』。しかも、誰にも言わず。それでも数週間毎に同じ事を繰り返し、結局退職していきました。未だに、彼の頭の中を理解できません。